

桐生市議会 創志会 行政視察報告書

視察都市	青森県 青森市
視察日時	令和4年 4月20日(火) 9時00分 ～ 11時00分
訪問先	青森市役所 〒030-8555 青森県青森市中央 1-22-5 Tel. 017-734-1111
参加者	人見武男 佐藤光好 園田基博 石渡宏明 北川久人 工藤英人
視察項目	移住支援、リモートワーケーション体験モニター事業

■ 視察内容:

◎ 面談者:

青森市 企画部 企画調整課 新しい働き方推進室 室長 高坂 和磨 様
青森市 市議会 議長 長谷川 章悦 様
青森市 議会事務局 総務課 主事 石岡 侑子 様

◎ 青森市の概要: <https://www.city.aomori.aomori.jp/>

人口 272,752 人 (令和4年4月末現在)、面積 824.61km²。青森県の県庁所在地および県内最大の中核市であり、青森湾に臨む交通要地。例年 35 億円程度の費用を要する豪雪地帯。(昨年度は特に降雪量が多く 50 億円程度を要した。) 県内外に誇る「ねぶた」では毎年、300 万人程度の入りがあるが、コロナ禍を背景にこの 2 年連続で中止の憂き目となっている。(今年度は現時点、開催方向で推進中。) むつ港でのホタテ、ホヤ等の海産物が豊富。リンゴ、カシスなどのフルーツも多くの収穫があり、特に浪岡、黒石地域のリンゴは全国区でもある。



↑ 青森市役所全景と、当日の打合せ会場となった議会議事室内

◎ 「移住支援、リモートワーケーション体験モニター事業」について:

<https://www.city.aomori.aomori.jp/kikakuchousei/kurashi-guide/sumai/iju-teiju/remote-work.html>

- ・ 県外在住者を対象に、複数日宿泊の期間で青森市に滞在をしながら、リモートワークやワーケーション体験を行うモニター事業を展開中。
- ・ コロナ禍を背景に関係人口が大きく減少。少子高齢化が進む中、こうした逆境を「契機」に変えるため、大都市圏からの呼び込みを必要と考えた。「ワーケーション」という言葉はもっぱら、バケーションといったニュアンスが強いが、関係人口を「地域との繋がり」としてより一層拡大していけるよう、事業の更なる展開を目指している。



- ・ 当該事業の発足にあたっては、産学官共同で青森市、青森商工会議所、青森公立大学等で構成をした「青森リモートワーク人材誘致研究会」を立ち上げることからスタートをした。

① 先進事例の調査研究:

- (ア) コロナ禍であまり実施できなかったが、広域圏域連携中枢都市として今後検討すべき方向性について、セミナーや講演で使える報告書として作成を委託、フォーラムを開催した。
- (イ) どのようなワーケーションを目指すか...。
「地域交流型 × リモートワーク型」とし、推進室を設置。
経済部、農業部や県職員の東京事務所職員と整備体制を構築。
- (ウ) ワーケーションモニターの目標参加人数を 50 人以上に設定、うち移住に繋げることでできた人数 5 名をその達成値とした。
結果は令和 3 年度 23 組 51 人の参加。移住者は 1 人であった。

② 大学施設を活用した交流プログラム・体験プログラムの開発:

(ア) 宿泊施設として古民家を改装した民泊や大学国際交流ハウスを借り上げ、藍染体験や和紙を使ったランプシェードづくり体験などを実施。

③ くらし体験プログラムの開発:

(ア) モニター参加者に随行をしての地元スーパーでの買い物や、郷土料理づくりなどの体験モニターツアーを実施。

④ 余暇の充実プログラムの開発:

(ア) マリンアクティビティ、秋山体験、スノーアクティビティ、食と温泉交流などを実施。今年度はリンゴ収穫体験を企画。

・一度青森に来ていただいた方々に積極的にアプローチをし、何度も来てもらえるリピーターになっていただくことから、最終的な移住に繋げていくことも念頭に取り組んでいる。

・宿泊の施設は下記いずれかを利用。

① 青森公立大学国際交流ハウス:



↑ 外観



↑ リビング



↑ ベッドルーム

② 浅虫移住体験施設「石木邸」:



↑ 外観



↑ コワーキングスペース



↑ 2階和室

- ・多彩なワーケーション・メニュー（体験費別途）事例は下記のとおり。既述した例を代表に、ワーク、くらし、アートクラフト、文化、歴史、アクティビティ等、趣向を凝らした独自メニューを取り揃えている。

- コワーキングスペース利用体験
- 起業・創業相談体験
- 住宅視察 & 買い物体験
- 郷土料理づくり体験
- 藍染め体験
- 版画体験
- ハーバリウム制作体験
- 和紙でつくるランプシェード制作体験
- 消しゴム版画作成体験
- ハガキ絵作成体験
- 風景・静物スケッチ基本講座
- こぎん刺し体験
- 縄文の暮らしを学ぶ（世界文化遺産登録：三内丸山遺跡他）
- 八甲田雪中行軍遭難の歴史を学ぶ
- スノーハイク散歩 in 浅虫ダム（ほたる湖）
- ベイエリア スノーハイク散歩
- 酸ヶ湯ネイチャーツアー
- ロープウェーで八甲田樹氷ツアー
- その他、地域交流（まちづくり協議会）や、プチ農業体験など

- ・転職をしないまま移住のできる環境づくりを実現するため、ターゲットをリモートワークに絞り、IT 関係やクリエイター、フリーランスのデザイナー、カメラマンなどを設定。

- ・環境的に仕事はできるが、仕事と生活が一緒になった状況で、冬の雪の大変な時期などには躊躇してしまう人もあり、雪かき体験の追加等も考えている。

- ・今までの実績を経て令和 4 年度予算に計上した事業は下記のとおり。

※ 新しい働き方担い手誘致プロジェクト:

リモートワーク・ワーケーション体験モニター事業 5,679 千円
クリエイターワーケーション体験ツアー（新規）5,052 千円

※ 県外企業移住、移農検討者向けのトップセールス PR イベント：
首都圏での企業誘致説明会・セミナー 1,300 千円
首都圏での PR イベント 841 千円

※ 企業立地、就職支援、移住、移農情報の発信 PR の強化：
WEB 広告による情報発信 528 千円
農業情報総合サイトを活用した情報発信 275 千円

※ 地域おこし協力隊等による移住支援体制の強化：
移住コーディネーター・地域おこし協力隊員 16,526 千円
隊員 4 → 6 人に拡充

・機械的な対応にならないよう職員は心掛けている。参加者行程を一緒に考え、アテンドをしながら連れていき、一人ひとりの繋がりに結びつけている。また市職員には地域で構築された人的なネットワークがあるので、仕事面でのキーマン等に繋げる活動も行っている。

・令和 3 年度より移住者支援金の要件に関する緩和を実施。
→ 移住体験経験者、2 回以上移住相談した方を新たに追加。
→ また 23 区以外からの移住者には青森市独自の移住支援金を準備。
年間最大 36 万円、3 年で最大 108 万円の支援金を用意。
青森に興味を持っていただいた「東京以外」の都市圏からの移住希望者の喚起を目指している。

・当該体験モニター事業参加の対象者は以下 3 点を満たしていること。
→ 県外在住（住民票住所が青森県外）
→ リモートワークで業務従事をしている
→ 青森県移住に興味関心を抱いている

・宿泊費およびリモートワーク体験費は無料。
交通費（1 人あたり上限 2 万円、1 組上限 8 万円）やレンタカー代（1 組 1 万円上限）の助成金制度あり。

【質疑応答】

Q 予算に事業費が計上されているが、総予算はおおよそ？（工藤）

A おおよそ 15,000 千円。57 組 120 名ぐらいは活用できる試算である。

- Q 参加者の数が多くその好評さが伺えるが集客方法は？（北川）
A ホームページ掲載による効果が意外に評判で、閲覧下さった方々がリンク先をシェアして下さるなど、拡散に至っているようである。掲載情報のレイアウト工夫はもちろんながら、ワーケーションという記載にあたって、workationではなくworkcation（communicationを想起させる「c」を用いた）などの細かな点への配慮も行っている。

◎ 議会議事堂の視察：



↑ 明るく開放感のある議会議事堂。凹凸の施された壁デザインもユニーク

■ 行政視察 所感：

- ◎ 地元青森を感じてもらおう！そのために新しい組織を発足し、室長自ら率先をして「まずはやってみよう」という大方針を掲げ、行動・考動されておられる姿が随所に垣間見ることができ、大変好印象であった。
- ◎ カジュアルな服装、通年ノーネクタイという従来イメージを変えることから着手していることも型破りであり、これには同時に親近感も覚える。

- ◎ 令和 2 年度の移住者実績が 25 人であった中、当該事業をとおしての更なる獲得数として+5 人の目標値を掲げての令和 3 年度結果は+1 人に留まっているが、「効果はすぐに出るものではない」と言及された発言の裏には既に、確固たる手応えと達成に向けての固い決意を感ずることができた。
- ◎ そこに暮らす人々にとっては日常当たり前のことが実は、他県や他市から訪れた方々にとっては非常に新鮮であり、時に魅力的なことが多い、とした考えは目にも耳にも頻繁に接することながら、他にない青森市特有のものへの着眼点が生活に直結をするという側面において非常に優れていると感服した。（地元食材の買い物の仕方、雪かき作業の手順等）いかに担当する市職員の方々が移住希望者に寄り添っているかの表れであると考ええる。

■ 視察成果による当局への提言または要望等：

移住者が抱えている様々なニーズを的確に捉え、それらに対して彼らが有するリソースをどのようにミートさせることができるのか、そうしたマッチングという部分において、当該青森市の取組みを是非参考にして頂きたい。ワーク、くらし、アートクラフト、文化、歴史、アクティビティと多岐に亘り工夫を添えて取揃えられているこれら豊富なメニューこそがその証左である。

もはや、添乗員の範疇を超えたレベルとも見えなくはないアテンド内容については時に「過剰」の印象を覚える嫌いがあるかも知れないが、根底にあるのは「地元愛」の一語に尽きるもの。変化や挑戦を恐れることなく時勢に沿った「転職なき移住の実現」について、室長を筆頭に全庁柔軟なアイデアを持って移住希望者の想いに寄り添い、相互達成を目指すその取組み姿勢には、見習うべき点が多岐に亘る。

尚、今後更なる移住者支援の拡張を図るにあたり、現段階の制度設計にあってはその支援金額について全国一律のものとなっている点について大きな疑問を覚えており、地域性差異等を踏まえた「改定・改善」について国に対し、継続して要望をあげていきたい、とする旨の力強いコメントがあった。

地方の声を中央に届け続けていく、こうした点についても是非、桐生市における市政運営にあつての参考として頂きたいと大いに期待する。

以上